

心と心をつなぐ可能性に満ちた基金へ

「るつ記記念基金」が20周年を迎えた2003年、奨学生達はマニラで集会を開き、私どもに「この基金は単なるお金の援助にとどまらず、心と心をつなぎ、より深い関係を生み出す可能性に満ちたもの」と、身にあまる感謝のメッセージをくださいました。わたしたちはそれを、「ひとりひとりのことを覚えて祈る」と理解し、ささやかながらも「ひとりひとり」との交流に努めてきました。昨年訪問したミンダナオ島ジェネラルサントス市の奨学生ジャエリ（右の写真）は村としては初めての大学生で経済学を専攻しています。こまめに心温まるお手紙をいただいていますのでその一つをご紹介します。



私の親愛なる支援者の皆様

神様の祝福と平和の内にお過ごしのことと存じます。

私は皆様からクリスマスカードとすばらしい写真（*1）をいただきました。皆様のご配慮とご親切、本当にありがとうございます。

このプレゼントを受け取った時私は本当に幸せでした。又、皆様からのメッセージも読ませていただき、皆様がいつも私の心の中に、そして日々の祈りの中に入れてくださると心動かされました。

私は皆様が昨年ジェネラルサントス市の私たちを訪問してくださった日のことを思い出しております。私はその時、私のスポンサーの皆様と直接お会いし語り合うチャンスを与えられ本当に幸せでした。両親を訪問して下さった際のお写真もいただきましたので、私は両親と共にある日々の生活をいつも鮮やかに感じながらすごすことができます。これらのお写真は皆様から頂いた私の宝物として大切に致します。

さて、私が今どんなに期待に胸をふくらませているかお判りでしょうか？今の学年は終了間近で、2012年の6月にはいよいよ大学4年生となります。皆様のご継続的なご支援が私の夢を実現させてくださいます。皆様のお助けを本当に感謝いたします。

私は皆様のご壮健で、皆様のご親切に神様が報いてくださるようにと、いつも神様にお祈りしております。神様の祝福がありますように。

2012年2月1日

皆様の奨学生 ジャエリ・グレイス・ファンゴロ

（*1）：昨年8月訪問時の記念写真



大学内のセンターにて奨学生、大学生、スタッフ等が参加して日立教会員(9名)との交流会が開催された。前から2列目左から2人目がジャエリ。



ジャエリの村の白いセンター前広場で地域の方々とのダンス!その後ろの方に隣接する小学校と生徒達が見える。小学校はチャイルド・ファンド・ジャパンの支援で建設、拡張されており、ジャエリもセンターの支援を受けてここを卒業した。この村の母親たちは教育の必要性に目覚め、今では良き理解者だ。